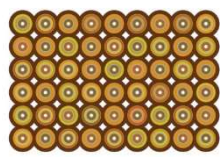


やおむす
「八百結び®プロジェクト」の農産物が、
農林水産省が推進する環境負荷低減の取組の「見える化」
温室効果ガス削減・生物多様性保全で3つ星評価を獲得
「リジェネラティブ農業」と「サーキュラーエコノミーの実現」を推進



八百結び®
800MUSUBI
- SOIL TECH METHOD -



土着微生物の活性によって土を発酵させる新しい土づくりを実践する 壤結合同会社(よみ:つちむすび、所在地:東京都千代田区、代表社員:金瀬伸吾)は、農林水産省が推進する環境負荷低減の取組の「見える化」において、ガイドラインに基づき、「温室効果ガス削減への貢献」や「生物多様性の保全」の項目で、「八百結び®プロジェクト」の農作物「にんじん」・「さつまいも」・「米」が、それぞれ3つ星の算定結果を得ましたので、お知らせいたします。

農林水産省では「みどりの食料システム戦略(*1)」に基づき、持続可能な食料システムを構築するため、食料システム全体での環境負荷低減の取組や国民理解の醸成に向けて、環境負荷低減の取組の「見える化」を推進しています。ガイドラインに基づき、「温室効果ガス削減への貢献」や「生物多様性の保全」の取組を分かりやすく等級ラベルで表示することで、生産者の環境負荷低減の努力が消費者に伝わり、農産物を選択できる環境を整えていきます。今回評価された八百結び®の農作物にも今後等級ラベルが表示されます。



にんじん/さつまいも



米

「八百結び®プロジェクト」では、土壌微生物の活性を通じて地球本来の循環サイクルの実現に取り組んでいます。土壌微生物は地球のあるべき食物連鎖の循環サイクルの主役です。地球上の有機物(落ち葉、動物の糞など)を土壌微生物が分解することで土の中に養分を供給。その栄養分を基に新たな作物が育まれ、生き物の糧となり地球が循環していきます。

今回、「八百結び®プロジェクト」にて栽培された、にんじん、さつまいも、米は、「温室効果ガス削減への貢献」において3つ星の算定結果を得ました(*2)。また同時に、米は、「生物多様性保全への配慮」(現在評価対象作物は、米のみ)において、3つ星評価を獲得しました。

作物名	生産地	収穫期	温室効果ガス削減への貢献	生物多様性保全への配慮
にんじん	愛知県	2023年~2024年3月	★★★★	評価対象外作物
さつまいも	宮崎県	2024年8月	★★★★	評価対象外作物
米	鹿児島県	2024年8月	★★★★	★★★★

資料 農産物の環境負荷低減の取組の「見える化」の概要

温室効果ガス削減への貢献

栽培情報を用い、生産時の温室効果ガス排出量を試算し、地域の慣行栽培と比較した削減貢献率を算定。

$$100\% - \frac{\text{対象生産者の栽培方法での排出量(品目別)}}{\text{地域の標準的栽培方法での排出量(品目別)}} = \text{削減貢献率(\%)}$$

排出(農薬、肥料、燃料等) - 吸収(バイオ炭等)

★ : 削減貢献率5%以上
★★ : " 10%以上
★★★ : " 20%以上



※上記の商標は商標出願中です

対象品目 : 23品目

米、トマト(露地・施設)、キュウリ(露地・施設)、ミニトマト(施設)、なす(露地・施設)、ほうれん草、白ねぎ、玉ねぎ、白菜、ばれいしょ、かんしょ、キャベツ、レタス、大根、にんじん、アスパラガス、リンゴ、温州みかん(露地・施設)、ぶどう(露地・施設)、日本なし、もも、いちご(施設)、茶 ※括弧書きがないものは全て露地のみ

(出処) 農林水産省資料より抜粋

生物多様性保全への配慮

※米に限る

<取組一覧>

化学農薬・化学肥料の不使用	2点
化学農薬・化学肥料の低減(5割以上10割未満)	1点
冬期湛水	1点
中干し延期または中止	1点
江の設置等	1点
魚類の保護	1点
畦畔管理	1点

★ : 取組の得点1点
★★ : " 2点
★★★ : " 3点以上

農林水産分野の温室効果ガス排出量は、日本では国内全体の約 4%を占め、世界全体で見ると農林業に関連する温室効果ガス排出量は全体の約 4分の1を占めています。また、生物多様性の損失は、生存基盤への脅威として、気候変動と連携して取り組むべき深刻な危機であり、種の絶滅の速度や、生物に必須の元素である窒素やリンの循環は地球の限界を超えていると報告されています。今まで通り(business as usual)から脱却し、社会変革をもたらす必要があり、個別ではなく全体的な対応が求められます。生物多様性の損失を止め、増加に転じさせることで、ネイチャーポジティブを実現する必要があります。

「八百結び®プロジェクト」は、サーキュラーエコノミーの実現(地域循環型の社会を推進)を目指す、リジェネレーション・プロジェクトです。「リジェネレーション」とは、「再生的」「繰り返しまみ出す」といった意味を持つ言葉です。人口増加に伴う地球資源の枯渇や、気候変動といった危機に直面する中、このままの環境を維持する、という意味での「持続可能(サステナブル)」では地球資源の枯渇に間に合わないとして、環境を良い状態に「再生」する概念として生まれました。気候変動やサステナビリティに意識を向ける人々の間で、地球規模の社会課題を解決するための新しい概念です。地球環境の持続可能性だけを追求するのではなく、地球環境を再生しながら、生態系全体を繁栄させていく考え方を指します。



「八百結び®プロジェクト」では、地域の畜産農家さまが排出する糞尿や家庭用生ゴミなど、本来廃棄される有機物を独自のバイオスティミュラントと掛け合わせて付加価値の高い農業用資材(産土(*3)・培養水(*4))を生成して、地域土壌の健康力(微生物活性量の見える化)を整える目的を持って地域農家さまへ供給することで、無農薬栽培、減農薬栽培をサポートしています。

そして、2050年カーボンニュートラル宣言(2020年10月26日)を受けて農林水産省より発表された「みどりの食料システム戦略(2021年5月)」内で掲げられた「土壌微生物機能の完全解明とフル活用による減農薬・肥料栽培の拡大」・「耕畜連携による環境負荷軽減技術の導入」・「バイオスティミュラントを活用した革新的作物保護技術の開発」目標への貢献をめざしてまいります。

引き続き、「八百結び®プロジェクト」では「リジェネラティブ農業(*5)」と「サーキュラーエコノミーの実現」に向けた活動に取り組んでまいります。



- *1 「みどりの食料システム戦略」とは、2021年5月に、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現させるための新たな政策猛進として、農林水産省が策定しました。
- *2 (登録番号) にんじん:2024-1121-0321/0322、さつまいも:2024-1221-0301/0302、米:2024-1013-0324
- *3 「八百結びの産土®」は、独自製法(特許取得)純国産バイオスティミュラントにより各地の土着菌(家畜糞尿等)を発酵活性させた天然有機資材です。
- *4 「八百結びの培養水®」は、独自製法(特許取得)純国産バイオスティミュラントによる微生物活性をベースとした「天然資材の培養水」です。有機 JAS 資材リストに登録済(登録番号 JASOM-220601)。
- *5 「リジェネラティブ農業」は、農地の土壌をただ健康的に保つのではなく、土壌を修復・改善しながら自然環境の回復に繋げることを目指す農業を指します。「リジェネラティブ」は、リジェネレーションの形容詞です。

■ 会社概要

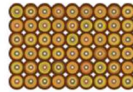
会社名 壤結合同会社

代表者 代表社員 金瀬伸吾

所在地 〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 4 番 1 号

設立日 2022 年 10 月

URL <https://yaomusubi.com/>



八百結び®
800MUSUBI
- SOIL TECH METHOD -



「八百結び®プロジェクト」はSDGsの八つの目標達成貢献をまず目指します。



微生物活性化を促進し土を発酵。肥沃な土壌を形成することにより持続可能な農業を実現します。



健全な土づくりと安全な農作物生産に寄与し、健康的な生活を支えています。



天然バイオスティミュラント (SoilTech)を通じ、土(地球)の環境改善を、農業をはじめ食産業の安心基盤として整備します。



牛糞・豚糞・鶏糞などの天然資源を特許製法でリユースすることで、廃棄物を持続可能な循環サイクルへ積極活用します。



有機物施肥を促すことで、土の炭素貯留能力を高め、温室ガス削減への貢献をめざします。



農地の土壌改善は河川へ養分を供給し、海中プランクトンの育成を通じて、海の生態系循環に貢献します。

*「八百結びの培養水®」は陸上養殖への貢献実証実験も計画中。



おとろえた土壌の腐植成分回復に貢献し、多様な生物が生きられる生態系ネットワークの回復に貢献します。

*「八百結びの培養水®」は海産物への貢献実証実験も計画中。



地方自治体や企業とのパートナーシップにより、持続可能な地域コミュニティや循環社会のあり方を追求しています。

以上